

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2 単位 人間を知る	文化人類学	中島 洋	2 年次	春

授業のキーワード	文化とは何か。文化人類学とは何か。文化相対主義の限界は何か。文化と文明。
授業の概要	文化は気候、地理などの自然条件に大きく左右されて醸成されるが、固有の歴史、宗教などの社会条件も密接に関与する。また、貿易・人的交流・外交・戦争など、他国との関係にも文化が深く関わることも知ろう。
期待される学習成果（目標）	1.「文化とは何か」について基礎的な知識を修得できます。 2.共通する歴史と文化に基づく民族主義に気づくようになります。 3.他民族文化を理解し、対応できる基礎的な能力を修得できます。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第 1 講	テーマ：文化とは何か。	文化人類学とは何か。「文化」とは何か。文化人類学はどのように発展してきたか。	第 9 講	料理と食材	伝統的な料理は伝統的な食材に依存し、伝統的な食材は自然環境に負うところが大きい。
第 2 講	文化の特殊性と普遍性	固有文化が持つ特殊性と他の文化と共通する普遍性。文化相対主義の限界は何か。	第 10 講	異文化との接触	異文化と接触したとき、何が起こるか。異文化の受容と拒否について考えてみよう。
第 3 講	新聞と文化	日本語の新聞と英語の新聞を比較してみる。情報リテラシーについても考える。	第 11 講	自然条件と生活様式	人間は自然条件に適合して生きてきた。近代化と自然環境の変化は生活をどう変えるか。
第 4 講	言語と文化	何億人にも使われている言語と、数百人にしか使われていない言語。言語の発生と消滅。	第 12 講	移民	かつて日本は移民を送り出す国だった。いまや海外からの外国人移民に対応する時代だ。
第 5 講	海と人間	海は様々なものを生み出し、自然環境にも大きな影響を与えている。海と人類の関わり。	第 13 講	外交	文化、宗教、イデオロギーの違いが外交を複雑に。日本の外交の高度化には何が必要か。
第 6 講	育児と教育	育児も教育も文化圏ごとに異なる。母系制社会と父系制社会についても考える。	第 14 講	戦争	戦争はなぜ起こるのか。その原因を考え、平和の維持には何が必要か考察する。
第 7 講	姓と名	本来、姓や名は出自を表し、祖先からの系譜を共通にする集団を形成していた。	第 15 講	講義の総括	各自の課題（宿題）および第 1～14 講までの総括。
第 8 講	地球温暖化と縄文の海進	温暖化による海面上昇と縄文の海進を比較してみる。海面上昇と人類の関係を考える。	定期試験		文化の醸成は主として何に基づくか、文化相対主義とは何か等を問う。場合によっては期末論文審査とする
評価方法		試験または期末論文の評価 60%。授業への取り組み（受講態度、課題を含む）40%。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
なし。ただし毎回レジュメを配布する。			ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の型』講談社学術文庫。 サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社。 古田博司『日本文明圏の覚醒』筑摩書房。		